

# 令和7年度 第1回東御市総合教育会議 会議録

---

## 1 日時

---

令和7年5月26日(月) 午後3時30分から午後4時30分

## 2 場所

---

公室

## 3 議題

---

- (1) 学校情報機器整備事業に係る計画について
- (2) 児童の体力向上について

## 4 出席者

---

○市長 花岡利夫

○教育長 山口千春

### ○教育委員

教育長職務代理者 小林経明

委員 直井良一

委員 五十嵐英美

委員 小林利佳

委員 富岡志津子

### ○その他

滝澤教育次長、土屋教育課長、春原保育課長

小林学校教育係長、小宮山学校施設係長、大塚保育係長

塚田学校教育係主任

## 会議録

---

滝澤教育次長

ただ今から令和7年度第1回東御市総合教育会議を開催します。  
はじめに市長、教育長からごあいさつをお願いします。

花岡市長

皆様大変お世話になっております。

五十嵐教育委員には再任いただきありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。

現在、5地区で令和7年度市政運営説明会を行っています。今年度の市政について、また、東部地区小学校給食センターの進捗状況等について説明しています。いろいろな意見をいただいておりますが、基本的に事業を進めることに関しての異論についてはあまりいただいております。学校給食の問題や将来を見据えた学校施設の長寿命化とその先の問題、中学校の在り方等、教育委員の皆様と意見交換をしながら確かなものにできたらと考えています。

山口教育長

教育委員の皆様におかれましては、先ほどの定例教育委員会に引き続きよろしくお願いいたします。

本日の議題は、学校情報機器整備事業に係る計画について、また、児童の体力向上についてという2つの議題であります。この体力向上につきましては、本年度の重点取り組みの1つとして定例教育委員会で決定したものであります。これまでも取り組んできた内容であります。見直しや再検討をしていきたいと思っている議題の1つであります。

この後それぞれの担当から説明の後、いろいろな角度からご意見、ご提言をいただき、意見交換をし、共通理解を図り、業務推進に活かして参りたいと思っています。子どもたちや先生方が安心して、園や学校での生活を送ることができ、保護者の皆様も安心して子どもたちを園や学校に通園通学させられるような、環境整備を充実させるためにも議題へのご意見等、よろしくお願いいたします。

滝澤教育次長

ありがとうございました。

それでは、議題に入ります。議題(1)学校情報機器整備事業に係る計画についてです。GIGAスクール構想に基づき1人1台の端末の整備を行いました。端末の更新時期を迎えるにあたり、必要な計画を定めたものになります。

小林学校教育係長

令和2年度にGIGAスクール構想に基づく1人1台の端末の整備を行いました。更新の

時期を迎えます。令和7年度以降に端末の整備方針を行うものについては、端末の利活用促進及びそのために必要な整備等を内容とする計画を令和6年度末までに策定し、公表することが国からの補助の要件として定められています。

1つ目は、端末整備・更新計画です。令和10年度までの児童生徒数推計値に基づいて、上限台数等の計画、端末の整備と更新計画の考え方、更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について記載することになっています。端末の整備・更新計画の考え方は、令和8年度から10年度の3カ年に分けて調達することで、予算の平準化を図ります。令和8年度は中学生分、令和9年度は小学校高学年、令和10年度は小学校低学年で更新する計画です。児童生徒数の変動、端末の老朽化の状況に応じて随時計画は見直しを行います。

2つ目は、ネットワーク整備計画です。十分なネットワーク速度が確保できているか簡易測定を行ったところ、文科省の推奨値を満たさない学校がありましたが、ISPと契約内容等の見直しを行い、推奨帯域を満たせるよう取り組んでいきます。

3つ目は、校務DX計画です。教職員の中でもデジタルリテラシーやセキュリティポリシーの認識が異なることから、教職員一人一人の能力や認識の向上に努めていきたいと考えています。

4つ目は、1人1台端末の利活用に係る計画です。ICT環境によって目指す学びの姿としては、第3期東御市教育基本計画の中の、各基本目標及び施策にICT教育に係る目標や内容を記載しています。GIGA第1期の総括としては、GIGAスクール運営支援センターを立ち上げ、ネットワーク障害等の学校でのトラブルに迅速に対応してきました。教職員研修を実施し、スキル向上に取り組み、児童生徒のネットリテラシーの定着に取り組んできました。1人1台端末の利活用方策として、より充実させるために、児童生徒に適した学習用アプリやデジタル教材を導入し、効果的に活用していくことが必要となります。安全に活用できるようフィルタリングソフトを導入するとともに、インターネットに対する正しい知識や使い方を習得できるよう、引き続きネットリテラシーの向上に努めます。

#### 滝澤教育次長

この内容については、3月定例教育委員会で協議し、計画について承認をいただいています。端末整備・更新計画、ネットワーク整備計画は端末及び利用環境の整備について、校務DX計画、1人1台端末の利活用に係る計画は教職員や児童生徒のリテラシーに関わる計画です。ICTについては、今後も欠かせない内容になるかと思えます。この内容について、いかがでしょうか。

#### 小林委員

教職員が使用している校務用PCについては、どのように更新を行っていくのでしょうか。

#### 土屋教育課長

教職員が使用している校務用PCは全部で251台あり、昨年度はおよそ半分の更新を行いました。残りのPCについても今年度行う予定です。2年間かけて更新を行っています。

校務用 PC は3つのシステムで稼働しています。1つ目が全県下で使用されている校務支援システム C4th であり、成績処理等機密性が高いものを取り扱っています。2つ目がセンターサーバを置いて各種ファイルを保存するシステムです。3つ目が、子どもたちが使用する教材の教材作成システムです。

花岡市長

今の話で、教職員は子どもたちが使用するタブレットと同じものを校務用 PC として使用しているのでしょうか。

土屋教育課長

校務用 PC はノートパソコンですので、子どもたちが使用しているタブレットとは異なります。

滝澤教育次長

この計画は定例教育委員会で協議をする前に、ICT 推進連絡協議会で協議を行っています。小林職務代理には協議会にも出席していただいておりますが、いかがでしょうか。

小林職務代理

基本的には、使用可能な端末は継続して使用するという方針で計画していますので、全ての端末を一度に更新する方針ではありません。また、可能な限り予算を抑えながら行っています。

滝澤教育次長

国の基金を使用する方針であり、補助額は上限額 55,000 円となっています。その中で国が 2/3、市が 1/3 であり、いずれにしても市の財政的負担は必要です。その中で、協議会の方針にもある使用可能な端末は継続して使用することについては重要な方針であると思われま

小林職務代理

県内では Chromebook を使用している自治体が多いですが、市では iPad を使用したことにより継続して使用できているため、長期的な視点から考慮すると追加経費をかけずに使用できていると感じます。Chromebook を使用している他自治体では、耐用年数が短いことでこの5年間で使用している端末の半分の買い替えが必要となる状況のようです。iPad の故障率が低いことが要因です。

土屋教育課長

令和2年度に導入して使用している端末 2,429 台のうち、故障台数はおよそ 20 台程度となっています。その点では費用は大幅に抑えられているように思われます。

滝澤教育次長

ネットリテラシーについて、正しい使い方をしないと、ある意味「武器」にもなり得るもので非常に危険なものです。

小林職務代理

過去に、SNS を使った誹謗中傷も起こっていましたが、やはり子どもたちもそうですが、親のネットリテラシーも上がってきていると思います。

土屋教育課長

ネットリテラシー教育については、市で力を入れて取り組んできていますので、少しずつその成果が見られているのではないかとも思われます。

小林職務代理

幼保小連携によって、保育園の保護者にも届くようになってきていますのでその点も良い点であると思います。

土屋教育課長

学習アプリとしては、有料版のロイノートを入れています。子どもたちに浸透しており、このアプリを無くすことは非常に難しい状況です。それ以外の学習アプリについては、基本的には無料版のものを入れています。先ほどの ICT 推進連絡協議会で判断し、問題なければ導入しています。

滝澤教育次長

続きまして、議題(2)児童の体力向上についてであります。これまでも、体力に関して様々な協議を教育委員会行ってきましたが、先ほど教育長の挨拶にありましたとおり教育委員会で重点取組としている議題です。昨年度から、保育課が教育委員会に入り、幼保小の連携部分がクローズアップされる中、体力についても、やはり保育園から小学校、中学校という繋がりも非常に大切であるということで今年度特に取り組んでいるものです。

小林学校教育係長

市内の全小中学校が令和6年度に実施した「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の集計をもとに、身体教育医学研究所から報告された内容になります。小学校1年生から中学校3年生の全学年について、県、国と比較し、市の体力面の結果がまとめられています。

市全体の結果としましては、男子女子ともに、県平均を下回っています。結果が県平均を下回っているからといって、個別種目の改善を目的に取り組むことは望ましくなく、結果の背景にある生活習慣や、動くことの動機づけに着目して、体力向上につなげたいという内容です。体力・運動能力調査の市の傾向としては、令和6年度の小学校5年女子が肥満傾向にあります。また、質問紙調査の中で、運動やスポーツが好きかという質問に対しましては、中学校2年男児で好きと回答した割合が少なくなっています。

次に、昨年度実施した遊び場調査についてです。結果として、校庭に出て遊んでいる割合は多いものの、各学校でばらつきがあるという特徴がありました。遊び場調査は、今年も実施する予定で、天候等に左右されないように複数日の実施を考えています。

#### 春原保育課長

小学校の現状を受けて、幼児期にどのように取り組んでいくのかについて説明します。

保育園には遊び部会という部会があり、部員が中心となって、園児の体力向上に向けて生活やその中で様々な経験を通して総合的に体力を伸ばしていくということで取り組んでいます。体力低下の悪循環にならないように、幼児期ですので、まずは体を動かすことが楽しい、遊びが楽しいというところに着目していきたいと考えています。

3歳未満児と3歳以上児に分けて、現在の子どもの姿の現状を探り、そこから不足している経験を補うような、運動遊びを考えながら実践が必要だということになり、課題ごとに「育ちのタネ」という冊子を作りました。

今年度は特に2歳児の育ちに目を向けて、0歳児から年長児までの縦の繋がり、育ちのステップを積み重ねていく横の繋がりを大事にして、さまざまなアプローチを行って、子どもたちの成長発達を含めて体力向上に取り組んでいきたいと思っています。また、園にはさまざまな資源がありますので、その資源を十分に活用していきたいと考えています。

#### 滝澤教育次長

調査項目にはさまざまな項目がありますので、各項目でどういったところに着目すればよいのかという点についても身体教育医学研究所から助言いただければさらに良いと思われれます。

その他に、この内容についていかがでしょうか。

#### 直井委員

多くの子どもたちは、通学を保護者に車で送迎してもらっている様子が見られます。学校周辺では車送迎による渋滞が起こっている状況です。

#### 五十嵐委員

車で送迎してもらっている児童生徒はどの小中学校でも見られます。

幼児期については、園庭の芝生や水や泥を裸足で遊ぶ、外で遊ぶ楽しさを感じてほしいと思います。小学校では体育で習った鉄棒や縄跳びを、休み時間で練習してできるようになるという喜びや達成感を感じられるようになってほしいと思います。

中学校においては、部活動の地域移行にも関わってくる内容ですが、中学校から新たに始める剣道や柔道等の運動部については「地域クラブ」という名称によって敷居が高く感じてしまうことがあります。クラブ化をしても、初心者が参加しやすい「ひらけた地域移行」になってほしいです。

小林職務代理

その通りであると思います。ミニバスケットボールやミニバレーボール等に参加している子どもたちは、その延長上で地域クラブに参加すると、中学1年生の段階で参加していない児童と大きな差が生まれてしまいます。そのため始めにくいという現状があります。

滝澤教育次長

一番の根底には「楽しく遊ぶ」ということであると思います。そこにルールが作られてスポーツができていますので、やはりその根底の「楽しく遊ぶ」ということはなくしてはいけないものであると思います。

五十嵐委員

ゆるっとスポーツは、中学校に入った生徒たちにただ広げるのではなく、特に文化部を中心に強くアプローチして広げてもらいたいです。中学生は一番体力がついたり、体つきが変わったりする期間であるため、中学時代に体を動かす楽しさを感じてもらえるように取り組みが必要であると思います。

直井委員

他自治体で部活動の中でエンジョイ派と本格派の2つがあってどちらかを選択できるようなシステムがあるようです。

花岡市長

エンジョイ派の方が歳をとっても長くスポーツに親しむといわれています。

直井委員

体力に関連して、小中学生の視力は年々低下している現状です。目が悪いと運動にも影響してくると思われます。

土屋教育課長

ネットリテラシー教育の中で、そういった視点で検討されているようです。タブレットやスマホで画面を見る時間が長くなっていることから、視力低下がみられています。

滝澤教育次長

園児についてはいかがでしょうか。

春原保育課長

やはり園児においても視力低下がみられています。5歳児相談や就学時健診で視力検査を行っていますが、視力が低い園児が多くなっています。その原因について医師に聞くと、やはりスマー

トフォンやタブレット、テレビを見る時間が多くなっていることによるとのことでした。

直井委員

統計的にも、視力がどの程度低下しているのか見ていく必要があるかと思われます。

花岡市長

スマートフォンが好きで、かつ外遊びも好きだという子どもも決して少ないわけではありません。外遊びの機会は今後も作っていかねばならないと思います。

滝澤教育次長

先ほどの議題でもありました ICT と今回の外遊びは相反するようですが、どちらも将来的に子どもたちが必要になることであります。そういった中で、いろいろな意見を聞きながら行っていかなければならないということであると思います。

富岡委員

先日行われた子どもフェスティバルでは、体育館の中で行われましたが、子どもたちがとても元気に遊んでいる様子が見られました。楽しく遊ぶ工夫がされていることが感じられました。

滝澤教育次長

なにげないちょっとしたことでも体力向上につながっていくのではないかと思います。市が行うイベントに参加することが、新たに興味を持ったり挑戦したり等きっかけづくりになるかと思えます。

今回いただいたご意見を参考にして、事務を進めていきたいと考えています。

以上で令和7年度第1回東御市総合教育会議を閉会とさせていただきます。